

公表

## 令和7年度 事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援室kodomo戸塚 放課後等デイサービス (単位2)		
○保護者評価実施期間	2026年1月13日		2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29 (兄弟児 2世帯を含む)	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	2026年1月13日		2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラムの多様性と充実さ。	日常生活の充実と自立支援のための活動、多様な遊びや体験活動、お子さまが主体的に参加できるプログラムの提供を行っている。「将来的な自立」に向けて「5領域の項目を取り入れた支援内容や方針(ねらい)」を明確化し、活動の組み立てを意識している。	プログラムを提供するにあたり、参加するお子さまたちの特性やメンバーに合わせた進め方や環境、全体と個々のねらいや目標を意識する。感想等その日の振り返りも流れに入れていく。
2	課題に応じてカスタマイズした支援。	低学年期ではつまづき部分を重点的にフォローアップ、基礎知識の定着を目指し、できる・わかることが増えていくことで、学ぶことの楽しさを体験、自信と意欲につなげている。高学年期では、自己管理の強化、興味関心のある分野の調べ学習、自立や自分の将来像のイメージ構築に向けた自己理解を進めつつ、SSTで自身の強みの活かし方等を身につける活動を行っている。	馴染み深く取り組みやすい教科書ワーク、身近で明確な目標が立てられる漢検や数検等のツールを利用し、達成感を積み重ねていく。成長段階に応じて、自立に向けた社会性や自己理解をより高めるワークや課題を提供する。
3	安全、安心して通所いただける環境。	お子さまの気持ちに寄り添いながら、できたことは大いにほめ、安全にリラックスして自分らしく過ごせる雰囲気づくりを目指している。上級生と下級生が一堂に介することでそれぞれの役割や絆、仲間意識を育める環境にしている。スタッフも温かな雰囲気でお子さまと接するよう療育の方針をスタッフ間で共有し連携しながら関わるよう心がけている。	個別支援計画に基づいた、お子さまの課題や段階に合わせた療育と、いつでも自分らしく過ごせる雰囲気づくりを常に考える視点を持ち、情報共有をしながら支援にあたっていく。強みを活かし、さまざまな方法で困難やつまづきを乗り越える力、自立に向けた前向きな意欲や、本人が思い描く将来像を大切に成長を促していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもたちとの交流の場が少ない。	行き帰りの帰宅時間やご家庭都合等さまざまな理由により、通所時間や滞在時間が一定でないため、平時において該当の活動ができる時間が確保できていない。	長期休暇や土曜日等まとめて活動できる時間が確保できる際に、積極的な公共施設へのお出かけや外部交流、社会体験学習の機会等、時間をかけてじっくり活動できる内容のカリキュラムを充実していく。
2	教室への伝達事項に関して、確認がなされているか不安 Instagram等SNSの活用への不安 (連絡がスムーズで活動内容もよくわかる点はよい)	マチコミ・ショートメール・PCメール・お電話の4ツールをご案内、連絡手段としての活用を進めていたが、さまざまな理由での確認遅れや周知漏れ、情報の行き違い等で保護者様への通達や承認に不手際が見られた。	連絡手段を原則教室LINE、もしくは直接のお電話のどちらかで承るように変更。保護者様に説明と了承のうえ運用を開始。LINEやInstagramは内容や掲載写真の精査(個人情報他、特定要素が映り込んでいないか、投稿内容が適切か等)を複数職員に行い、取り交わし済の「個人情報に関する同意書」に準拠し慎重に行う。
3	活動スペースがもう少し広いとよい	共有スペースの活用が難しい時間帯もあり、メインの活動室のみで低学年～高学年までで過ごしている。静かな活動では1人1人のスペースはある程度確保できているが、運動や動きを伴う活動の際は手狭に感じる場面がある。	動きを伴うカリキュラムや自由あそびの際は、机やイスを教室外に出す等の配置転換を行い、できる限りの活動スペースを確保する。静かな活動でも備品の適切な運用と配置、必要に応じて多機能クラスの備品も活用し、ゆったりと作業ができるスペースの確保と集中して取り組める環境をつくる。